

令和2年度 第1回 日進市総合計画審議会 議事録

- 日時 令和2年8月19日（水） 午前10時から正午まで
- 場所 日進市役所本庁舎4階 第2・3会議室
- 出席者 阿部和俊、藤井美樹、市川豊、牧秀次、内田好昭、石野憲男、住田敦子、原田義弘、水嶋義弘、村瀬公一、数井美津子、鶴飼宏成、齊藤由里恵、廻間大樹、高岡俊彦（敬称略）
- 欠席者 宮崎幸恵、津金美智子、三村剛、酒井信、村上瑞岐（敬称略）
- 事務局 石川達也（総合政策部長）、和田徹（同部調整監）、杉田武史（同部次長兼企画政策課長）、安彦直美（同課課長補佐）、河合一成（同課市政戦略係長）、犬飼啓貴（同課市政戦略係主任）、志水崇法（同課市政戦略係主任）
- 傍聴の可否 可
- 傍聴の有無 有（傍聴者：8名）
- 次第
- 1 開会
 - 2 あいさつ
 - 3 議題
 - (1) 序論（案）について
 - (2) 基本構想（案）について
 - 4 その他
令和2年度の策定スケジュールについて
 - 5 閉会
- 配布資料 次第
- 資料1：第6次総合計画策定の進捗状況
- 資料2：第6次総合計画 骨子（案）
- 資料3：第6次総合計画 序論（案）
- 資料4：第6次総合計画 基本構想（案）
- 資料5：市民ワーキングからの意見
- 資料6：令和2年度第6次総合計画策定スケジュール

【議事概要】

発 言 者	内 容
	1 開会
	2 あいさつ
	3 議題
会 長	第6次総合計画策定の進捗状況及び本日の会議の目的について、事務局から説明をお願いします。
事 務 局	(資料1に沿って説明)
会 長	議題(1)序論(案)について、事務局から説明をお願いします。
事 務 局	(資料2・3・5に沿って説明)
会 長	ただ今の説明について、ご意見、ご質問がありましたら、ご発言をお願いします。
委 員	資料3序論2ページ(4)地域活性化のためのまちづくり戦略において、市としては総合計画にまち・ひと・しごと創生総合戦略を包含させることで、より効果的な市政に結び付けていきたいというお考えだと思います。しかしながら、市民ワーキングからの意見(資料5)では「唐突感がある、議論を踏まえないコメントがここに載っているのではないか」というようなご指摘があります。これは、市の意図が(4)において表現しきれていない、あるいは市民ワーキングが新型コロナウイルス感染症の関係で開催できていないかもしれませんが、市民ワーキングのみなさんの理解がいきわたっていないのではないかという感じがします。ここの記載については積極的に工夫する、あるいは情報発信していかれると良いのではないかと思います。
事 務 局	市民ワーキングの方には、総合戦略と総合計画を一体化していく意図については説明させていただいていますが、なかなか伝わっていない部分もあるかと思います。記載方法の検討をさせていただき、再度説明させていただきたいと思います。
委 員	<p>おそらく位置づけがわかりづらいのだと思います。法的な背景に基づいて策定したということだけでなく、「計画と戦略がどう関わっていくのか」という指摘が加われば、より効果的な計画づくりになると思います。</p> <p>新型コロナウイルス感染症については、「計画策定の趣旨」及び「主要課題」の中の項目にも追記されました。新型コロナウイルス感染症の影響についてはまだ見通せていないまでも、リモートワークや在宅ワークによる分散型の働き方への変化、さらに生活のあり方の変化など、インフラ整備にも関わってくるような状況が予想されます。そこで、新型コロナウイルス感染症については、「主要課題」において新たな課題としてきちんと取り上げるべきではないかと思います。都市構造の変化に関わることについてコメントされたほうが良いのではない</p>

発 言 者	内 容
事 務 局	<p>か、ということをご提案します。</p> <p>新型コロナウイルス感染症が、今後、社会にどのような影響を及ぼすかについては、今はまだ明確にわかっていない状況です。その中で、基本計画について検討を進めているところですが、災害対策部門、IT推進部門、そして感染症、健康福祉部門に議論がとどまっている状況なので、都市構造の部分で、本市に何か課題があるということならば、是非教えていただければと思います。</p>
委 員	<p>この計画が、今後10年続いていく計画だとするならば、新型コロナウイルス感染症の影響について既に見えていることから推定して、ある程度示していくことが今回は必要だと思います。限られた短い時間かと思われませんが、議論をされたほうがいいのかと思います。</p>
委 員	<p>アンケート調査を基にほとんどの資料が作られていると思いますが、日常的に区長に来るようなクレームや要望等は、ここには反映されていないと思います。例えば、防犯が評価されていないのは不思議に感じています。防犯活動をボランティアで行われている方は多数みえます。そういうことが浸透していない。市も、防犯カメラや防犯灯を設置している。それなのに数値には表れていない。それでは、どうするかということ、ボランティアだけでなく、例えば、区長要望の中で防犯カメラの設置要望はすごく多いので、要望の多いものを予算化するべきだと思います。そういうデータも取り入れて、皆さんが何を希望されているのかということをもう少し分析されてはどうかということ、特に「防犯」を通じて感じました。</p>
委 員	<p>今回、コロナ禍という事象が現実起きており、地元の商工業も大きな痛手を受けております。</p> <p>コロナ禍が収まったときには、いろいろな意味での経済活動を再開し、ますます活性化した日進市の商工業というものを目指していかなければいけないと思っています。そのなか、日進へもどんどんインバウンドを受け入れようという流れがあり、感染症だけでなく、疫病など海外からもたらされる想像もしないような事態が起こる可能性もあります。そのことへの対策については新型コロナウイルス感染症と分けて書いたほうがいいのか、あるいはまとめてでいいのか。せっかく新型コロナウイルス感染症を経験した私たちがつくる総合計画であり、10年後まで続く計画なのだから、そういう対策も含めて、可能性として考えられることはすべて盛り込んだほうが良いと思いました。</p>
事 務 局	<p>ご指摘のとおり、感染症の拡大は、新型コロナウイルス感染症に限るものではないと考えておりますので、その他の感染症、病気も含めて、すべて対策をとっていくような形での記載を検討します。疫病と感染症については一つの括りで考えておりますので、それについては</p>

発 言 者	内 容
委 員	<p>基本計画でも「感染症」というページを設けて、新型コロナウイルス感染症に関わらず、その他の感染症についても記載していこうと考えています。</p> <p>3点意見を述べさせていただきます。</p> <p>主要課題の(8)では、いつまでも暮らしたい「住みやすい」都市としてのイメージとして、「文化的な都市ならではの、上質な暮らし」という文言があります。また、骨子の「まちづくり戦略」には、「質が高い住宅都市としてのブランド形成」、「シビックプライドの醸成など」という文言がありますが、生活に困窮されている方なども含めた共生社会の実現を目指すときに、こうした文言が市民の気持ちに沿うものでしょうか。確かに、質の高い住宅はたくさんあると思いますが、そこだけがクローズアップされていくことへの拒否感や抵抗感を感じる方もおられるのではないかと、それが本当に日進市民のシビックプライドといえるのか、ということを感じました。もう少し丁寧な説明があってもいいのではないのでしょうか。</p> <p>2点目は、14ページ(3)には、「誰もが暮らしやすいまちづくり」とありますが、共生社会の実現を目指すなか、日進市には県営住宅や公営住宅等がありません。経済的に困窮している方が安価で暮らせる住宅の供給、また障害があっても高齢になっても地域の中で暮らし続けるための居住の確保など、そういったことを考えていければいいと思います。</p> <p>3点目ですが、15ページ主要課題(6)には「市民が安全で快適に市内外に気軽に移動できる環境の向上」として、移動の問題が挙げられています。市民へのアンケートでも、「交通の便が悪く、暮らしづらい」との回答が45.8%あり、くるりんばすの活用や見直しも検討されていると思います。一方で、公共交通機関ですべてをまかなうのは難しい面もあり、例えば、何回か開催された円卓会議でも紹介されていますが、三本木、香久山、北山などでは、住民同士の助け合いとしてワンコインサービスの移動支援が実際に行われています。そういったものを社会実験という形で捉え、その成果を踏まえたうえで、きめ細かい移動支援について考えていきたいと思いました。</p>
事 務 局	<p>1点目の、「いつまでも暮らしたい『住みやすい』都市としてのイメージ戦略の展開」ですが、日進市は市外の方からの認知度が低いという面があります。また、日進市は現在も人口が増加している稀有なまちですが、この状況がいつまでも続くとは考えておりませんので、「日進市は住みたい、住みやすいまち」ということを積極的に情報発信していきたい、という思いで記載しております。</p> <p>ご指摘のとおり、「上質な暮らし」だと、捉え方に誤解が生じる可能</p>

発 言 者	内 容
	<p>性もありますので、情報発信の観点からもう一度検討いたします。趣旨としては「日進市は住みやすいまちなので、是非来てください」というイメージ戦略を進めていきたいということです。</p> <p>2点目、3点目については、ご意見のとおりで、主要課題に、「みんなが互いに支え合い助け合う地域共生社会の構築」、「市民が安全で快適に市内外に気軽に移動できる環境の向上」ということで挙げております。それらに対する施策については、基本計画の部分で検討し、詳細を記載する形になっています。それらの施策については、第2回目以降の会議でお示ししてまいりますので、またご意見をいただければと思います。</p>
委 員	<p>今回のコロナ禍においては、学びを確保することも、かなり重要な課題になってきていると感じています。これは、各学校の努力だけではどうにもならない部分が大いなので、市全体で子どもたちに学びを提供できる状況をつくるのが、長い期間をかけて必要になってくるかと思えます。</p> <p>主要課題には、「子どもの数が減らないまち」という文言がありますが、「日進市に来たら、コロナ禍の状況でも学びが確保できるんだ」と保護者が思えば、このまちに来たいと思っていただけるのではないのでしょうか。そのためには、学校だけでなく、地域や家庭教育の中でも、例えばオンライン環境の整備などが必要で、それにより学びが確保できるという安心感が市全体にあることが大切になってくると思います。感染症との関連で、「学び」についてもそういうことが記載されると良いのではないかと思います。</p>
事 務 局	<p>新型コロナウイルス感染症に関する対策は、6月補正などにおいて必要な予算を計上し、いろいろな施策を追加しております。コロナ禍において、やはり学校や、子どもたちの教育に関する部分については、市としても施策を進めていかなければならないと考えており、第6次総合計画が始まる前から実施しております。また、第6次総合計画が始まってからも、継続していきたいと考えております。</p>
会 長	<p>今のご発言に関係することとして、ここには「いじめ」ということが出てきません。ないわけではないだろうけれど、おそらくそういうことは非常に少ない市なのだろうと思っています。</p> <p>また、散歩をしていると、よく子どもたちから「こんにちは」と声をかけられます。それは、比較的、日進特有のことではないのでしょうか。見知らぬ大人に子どもたちがあいさつをするということは素晴らしいことだと思います。そういう意味では、比較的教育の部分はうまくいっているのではないかと思います。</p>
委 員	<p>主要課題の「(4) 安全・安心な暮らしを下支えするハード・ソフト</p>

発 言 者	内 容
	<p>両面からの取組の推進」において、新型コロナウイルス感染症について追記がありますが、感染症対策やリスク等に対してだけ新型コロナウイルス感染症の影響があるように捉えられてしまうのではないかと感じる場所があります。</p> <p>今回の新型コロナウイルス感染症については大きなインパクトがあることなので、策定の背景や第2章の「社会潮流の変化」に1つの項目を設けてもいらいだと思えます。そうすることで、「新型コロナウイルス感染症は全てのことに影響する」という位置づけになります。今の時点では、今後必要な対策などまだ見えない部分があるので、「何か起きたときには即座に対応できる」というメッセージの意味でも、ここに1つ項目を設けることも、ご検討いただければと思えます。先ほどは教育の話がありましたが、教育現場のICT化、リモートワーク、また都市計画など、すべてに関わるような書き方ができたらいいのではないかとと思えます。</p> <p>また、「市民の視点からみたまちづくりの課題と方向性」では、「日進市は住みやすい、住み続けたい」という人が減少傾向にあるということで、この数値だけを見ると少し悲観的になってしましますが、やはり多様性というか、いろいろな価値観があり、世代やジェンダーによっても違うのだろうと捉えることもできるので、悲観的なことでもないのかなと思えました。</p>
会 長	事務局の発言をお求めになりますか。
委 員	項目を増やすことに関しては、即答できることではないと思うので、また検討していただければと思えます。
事 務 局	新型コロナウイルス感染症については全体に関わるような影響を持っている面があるので、検討させていただきたいと思えます。
委 員	<p>新型コロナウイルス感染症について議論していますが、この計画全体の中に、異常気象について何も取り上げられていないことは非常に問題だと思っています。異常気象についての問題は、日進市の緑をどう守っていくかということにも大きく関係しています。</p> <p>それで、この中には、緑を守ることにについては記載がありますが、「戦略的に緑を創っていく」という記載が見当たらないのが非常に残念です。守りつつ戦略を立てて緑を創り出していくことも、大きな課題として盛り込まれるといいなと思っています。</p> <p>また、ごみの分別収集も、計画の中では大きな課題であると思えますが、主要課題としての記載がありません。一つずつの内容については、また検討したいと思えます。</p>
事 務 局	異常気象による災害の発生等については課題として認識しており、社会潮流の変化の中では、「風水害など大規模な災害が頻発している」、

発 言 者	内 容
	<p>「環境問題の深刻化」というように記載しており、また主要課題の「安全・安心な暮らしを下支えするハード・ソフト両面からの取組の推進」の中では、「地球温暖化に起因する気候変動による様々な災害が発生する恐れがある」と触れております。ただ、「異常気象」という表現ではないので、課題としては認識しておりますが、こういった表現をするとういのかは検討させていただきます。</p> <p>また、緑については、総合計画の将来都市像では「みどりのまち」ということを謳っており、特徴では「日進市は緑のあるまち」ということで触れておりますが、主要課題では触れていない状況です。基本計画部分では「守るべきところを守る。都市についても緑を創っていく」というようなかたちで記載しており、現在策定中の「緑の基本計画」でも触れておりますが、総合計画の主要課題でも緑についてどこかで取り上げられないかを検討したいと思います。</p>
会 長	議題（２）基本構想（案）について、事務局から説明をお願いします。
事 務 局	（資料２・４・５に沿って説明）
会 長	ただ今の説明について、ご意見、ご質問がありましたらご発言をお願いします。
委 員	<p>土地利用構想図を見ると、緑豊かな森林保全ゾーンは、住宅地から非常に遠いところにあり、生活の中で接するような緑は少ないわけです。そこで、農地・農業振興ゾーンを緑として活かしていく計画があってもいいのではないのでしょうか。これを日進市の特徴と捉えて、この緑をいかに守っていくかという戦略があってもいい、というのが意見です。これが、全てのことに関わっていくかなと思います。新型コロナウイルス感染症の関係で、産業形態や商業も変わっていくかもしれない中で、一番基本となる「生きる」ということにつながっていけば、例えば、このことが食糧自給率を高めることになれば、日進市の市民が安心して暮らせるようなまちづくりにつなげることができるのではないのでしょうか。高齢となった農地の所有者が、もう農業を続けていけないという声も聞いています。個人が所有する緑を保全し、緑を残していく方法を考えていけるようにできないものか。そういうことを強く感じています。</p> <p>今回のコロナ禍において強く感じたのは、地産地消というように、身近なところで完結できるような在り方が求められる時代になったのではないかということです。こういったことを踏まえ、日進は緑を利用した新しい計画戦略があってもいいのではないのでしょうか。今、いろいろなまちで起きている自然災害による被害を見ても、農業やさまざまな分野が手を組んでまちを形成していかなければならないということを感じました。美しい田園を残すことに取り組んでいる諸外</p>

発 言 者	内 容
	国を参考にしながら、今後、日進市内の開発が進むといいのではないかと感じました。
会 長	森林の緑、田畑の緑、個人が所有している緑など、いろいろあります。個人が所有する緑については、近年、多くの自治体で問題になっている空家問題にも関わってきます。そういうことも含めて、総合的に捉えてのご意見だと思います。
事 務 局	序論の「日進市の特徴」の中でも、里山や田畑は日進市の貴重な自然環境として位置づけています。その田畑の保全については、遊休農地を解消する、担い手不足を解消するというところで施策を進めておりますが、なかなか解消に至っていないことはご指摘のとおりです。今後の日進市の農業についての具体的な施策については、基本計画のほうに記載していきますが、できるだけ実効性の高い施策を記載したいと思っています。日進市には専業農家がほとんどなく、農業だけで稼ぐのは非常に難しいまちではありますが、いかに農地を活用できる環境をつくっていくかということは、行政に課せられた課題でもあります。
委 員	緑を守るということは、大変苦慮しているところで、序論に記載されている「満足度」を見てもわかるように、「池、川、山林など自然がある」、「田畑がある」ということで、市民には非常に期待されていますが、農地の所有者は高齢化が進み、担い手不足などで苦労をされています。やはり田畑の付加価値を高めるような施策を進めていただいて、農地が残るようにお願いしたいと思います。
事 務 局	また検討させていただきます。
委 員	<p>「まちの将来像」には、「“おしゃれで住みやすく活気のあるまち”という地域ブランドを強化していく必要があります」という文章があります。「おしゃれで住みやすく活気のあるまち」という文言は、どこから抜き出してこられたのであろうと思いますが、出典等を参考資料や附属資料に示される方が、説得力が高まるのではないのでしょうか。将来都市像をどのようにしていくかという際に、同じような文言が別の文章で出されているので混乱を防いだほうがいいと思います。</p> <p>「将来人口」にある推計値については、実態に合わせるよう推計の公式や基準を変える努力をされてきたと思います。今までの計画とこれからの計画を見据えたときに、人口規模というのは極めて重要なファクターになると思われるので、「どのような公式により視点が変わったので、この推計値になっている」ということを附属資料の中に位置づけておいたほうがいいのではないかと考えます。</p>
事 務 局	<p>推計については、新たに行っておりますので、参考資料として付けていきたいと思っています。</p> <p>「おしゃれで住みやすく活気のあるまち」というのは、特に他との</p>

発 言 者	内 容
	<p>整合が図られているものではありません。変更した方がよろしいでしょうか。</p>
委 員	<p>変更はしなくてもいいと思います。どこかで言っているのであれば、それをきちんと強調したほうが、説得力が高まるのではないかと考えます。</p>
事 務 局	<p>最近は、「日進・長久手」ということで取り上げてくださる雑誌等が増えてきました。その中で、日進市が「おしゃれで住みやすい」というふうに表示されていたので、使わせていただいています。ただ、それは日進市の一部の地域に限定されてしまうのではないかなど、いろいろなご意見があるかもしれません。</p>
委 員	<p>土地利用についての先ほどの委員のご発言は、「ゾーニングされた中での緑」という位置づけで理解するだけでなく、例えば住宅団地、あるいは市街地における緑など、「生活する中での緑」というものの意味を問い直さなければいけない、ということだったと思います。広域で見ると非常に高い緑被率かもしれないけれど、狭いエリアで見たら住宅しかないということになっているとするなら、それをどう理解するのかということですか。つまり、「みどりの住環境都市」という第5次の計画の中にあつたイメージとしては、「日進市全体の中で緑が多い」と理解するのか、「生活のすぐ隣の中においても緑が多い」と理解するのか、ということですか。</p> <p>先ほどのご発言は、計画をつくるときのベースとなる理念として、どういうものを目指して「緑」という言葉を使っていくのかという問いかけではないかと解釈しています。そうすると、ゾーニングとか土地利用計画をより積極的に表現していくためには、市街地においてはどうかという思想をこの計画の中に盛り込んでもいいのではないかと、というのが私の意見です。</p>
事 務 局	<p>総合計画の土地利用構想については、一番大きな計画になるので、抽象的にゾーンを示しております。緑の部分については、別に「緑の基本計画」がありますので、そちらで補完するという形で考えております。</p>
委 員	<p>身近な緑として、「家を建てる時にも緑を」ということは、前回の審議会でも提案しました。区画整理などの土地利用に関して、緑の保全のために「緑を創る」ということが、非常に貧弱だと思います。駐車場に芝生を貼っただけでも緑となる。木を植えるスペースを確保するというのではない。</p> <p>先ほどから、「豊かなにっしん」とか「おしゃれなまち」というキーワードがありましたが、昔の家が1戸壊されると、跡地に3戸建つといったことが増えている。悪いことではないですが、現実的に緑を創</p>

発 言 者	内 容
	<p>っていくことができない、そのようなスペースが無い家もあります。そのような中で、日進の中央部に広がる田んぼは非常に大切な緑であるという認識に変わりました。また、これからの食糧危機や異常気象を考えた時に、田んぼの保全や継続のためにも後継者を確保していくことは大切なことです。そのような計画がつくられてもいいのではないのでしょうか。田んぼに多くの生き物が住み、きれいな水辺がある。そういう豊かなまちになるといいと思います。そう考えると、やはり農業のしやすい、美しい田園を守っているヨーロッパには参考にすべきところがあるのではないのでしょうか。そういうことに日進市は先駆的に取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>また、議会でもよく出ていましたが、街路樹を植えるということですが、街路樹を植えられるような道路が日進市は非常に少ないです。ごみの個別回収ができないのは道路の問題も大きく関わっているわけです。そういうことを考えると、いま壊してはいけないもの、大事にしていくべきものにもう少し注目していてもいいと思います。</p>
会 長	<p>非常に難しい問題です。道路は、昔は狭かったけれど、広げる必要がなかったわけです。そこを車道と歩道を分けていくのは、非常に難しい面があって、市も苦勞しておられると思います。</p>
委 員	<p>産業振興の面からしますと、この計画はあまりワクワクしない、というのが感想です。企業の成長は難しく、後継者問題もあり、これから大きな会社も増やしていかなければいけない中で、例えば日進市内に工場を建てたいとか拠点をもちたいというとき、日進から出たくないが、日進では土地や場所を見つけにくいという問題があります。区画整理、産業ゾーンの話もありますが、そのあたりの方向性はどのようなのでしょうか。外の企業が計画を見たときに、日進に拠点を設けたいと思える計画になっていないのではないかと思います。</p>
事 務 局	<p>日進市については、東部の企業団地の開発を進めております。こちらについては、土地利用構想図の産業ゾーンを第5次総合計画から少し面積を大きくして、実際の面積に合わせる形に変更しております。先日こちらのほうに、黒笹三本木線という道路も新しく開通いたしました。その他の産業ゾーンにつきましても、必要があれば見直しを図りながら、随時追加をしていきたいと考えております。</p>
会 長	<p>市民意識調査の中で、転入先として日進市を選んだ理由の中に、「手ごろな価格の住宅があった」という項目が上位になっていましたが、当時、全然手ごろではありませんでした。期待感を込めて住むようになったら、住みやすくなったというのが実感です。</p> <p>先日、折戸川を散歩していたところ、ヌートリアがいました。外来種にとって住みやすいまちになるのは困りものです。そういったことに</p>

発 言 者	内 容
	ついて、あまり触れられていなかったように思いました。
	4 その他
会 長	その他、令和2年度の策定スケジュールについて事務局から説明をお願いします。
事 務 局	(資料6に沿って説明)
	5 閉会